

64
2015
Summer

64
2015
Summer

特集01 鈴木厚人岩手県立大学長×

達増拓也岩手県知事対談

特集02 図書館に出かけよう!

ラボ★アクション!

キャンパスフレンズ・水泳部

KENDAI NEWS

ケンダイ広報局

卒業生のワタシ★アクション!

在学生のワタシ★アクション!

社会人として大学院へ、
「学び」を地域に還元する。



卒業生のワタシ★アクション!

障がいのある子どもとその家族が
安心して暮らせる地域づくりを。





泉先生は森林保全の観点から、「森林認証マーク」のついた製品の調査も行っている

ラボ★アクション!

先生たちの 研究の流儀

地域のシンクタンクであり、多彩な学部を擁する岩手県立大学には、個性豊かな先生がたくさんいる。彼・彼女らがどんな想いを抱き、日々どんな研究に取り組んでいるのか。その横顔に迫ってみたい。



ゼミ活動の一環として、大学の一角で減農薬の野菜を学生と一緒に栽培中

「新しい専攻であり、加えて都留文科大の良き伝統で、先生も学生と一緒に学ぼう」というリベラルな雰囲気でした。私自身、学生、同僚、地域のみなさんから学んだことがたくさん。自分は学生と地域社会の仲立ちであり、両者が相互に学び、還元し合えばいいんだ、と気づかせてくれました。この経験は宝物。今も私を支えてくれます」

研究室では学生たちと一緒に森林認証マークの普及率を調査したり、減農薬野菜の栽培をしたりしているが「自分の意見をあまり言わない学生が多いかな。何を学びたいのか、またつかみ切れていないのが正直なところ」と泉先生。「けれど胸の中にはきっと熱いものを持っているでしょう。私がまだそれを引き出せていないだけ。早くそのポイントを見つけて、学生たちと一緒に『風』の仲間になりたいなと思います」

学生たち一人ひとりの「隠れた情熱」を引き出し「一緒に『風』をおこしたい。」

バブル経済が終末を迎え、地球温暖化や酸性雨など環境問題が関心を集め始めた1990年代、「環境問題について学びたい」と東京大学に進学し、農学部林学科で「水源林の管理」をテーマに研究に取り組んだ泉先生。大学院でも研究を続け、修了後は研究者の道へ。しかし、就職浪人して無給の研究者となったり、大学非常勤講師の職を得ても自身の研究に取り組みなかった

大学院での学びの成果を、 保健師としての成長につなげたい



山田町で働き始めた翌年に東日本大震災が発生。以来、被災地の保健師として様々な課題に無我夢中で取り組んできました。しかし振り返ると、この膨大な経験を整理できておらず、保健師としての力不足も感じていたことから、進学を決意しました。

「地域で幅広く人と関わることができるところに魅力を感じ、保健師を志したのは高校2年生の時。地元で学べる岩手県立大学に進学し、充実した4年間で看護学を幅広い視点で学ぶことができました。山田町へ就職を希望したのは、住民との距離が近い規模の市町村で、地域に根差した保健活動がしたいと考えたこと、そして海と山に恵まれた、温かい風土も魅力でした。

しかし、震災で町は一変。精神保健を担当していた私は、訪問活動によるころのケアに従事しました。歳も若く経験が浅い私に何ができるのか…。その不安とは裏腹に私を住民の方々はもてなしてくださり、若者だからこそつくれる関係性にケアの可能性を感じました。この経験を県立大学で講演し「学生だからできることがある」と呼びかけ、看護学部生によるボランティア団体「カッキー'S」を学生と井上都之准教授と共に立ち上げました。

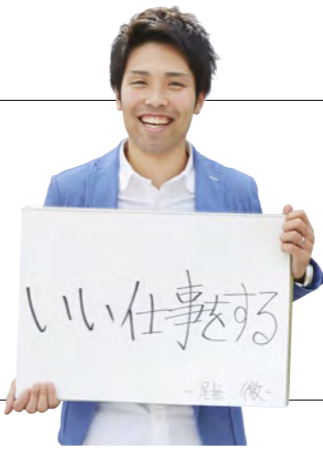
社会人が大学院で学ぶメリットは「何を学びたいか」がより明確になること。震災時の経験や現在の業務を大学院で理論的に整理し地域の復興に生かしたいと思っています。週に一度、山田町から通学するのは大変ですが、それ以上に新たな学びにワクワクしています。

ワタシ★アクション!

看護学研究科 博士前期課程1年

尾無 徹 Toru Onashi

1987年生、盛岡市出身。久慈高校卒業。2010年に岩手県立大学看護学部を卒業後、保健師として山田町に就職。県立大学のボランティアグループ「カッキー'S」立ち上げに関わり、現在はコーディネーターとして参加。2015年4月より大学院看護学研究科で「家族看護」の研究に取り組んでいる。プライベートでは1児のパパになったばかり。



..See You
Next
Action!

DATA

総合政策学部
泉 桂子 准教授

山梨県勝沼町(現・甲州市)生まれ。1996年に東京大学農学部林学科を卒業後、大学院に進み博士(農学)を取得。日本獣医畜産大学非常勤講師、(独)森林総合研究所研究員、都留文科大専任講師等を経て2013年に岩手県立大学に着任。「地域活性化論」「現代農村社会論」等の授業を担当。盛岡市の材木町で開催される「よ市」のお団子が「買い占めたいほど好き」。休みの日には子どものサッカーの応援や付き添いに出かけるお母さんでもある。

2013年からは岩手県立大学に赴任し、准教授として「地域活性化論」「現代農業再生論」などの科目を担当。県立大学の印象を訊ねてみると「風が強いです」と笑う。

「でも、本当に『風』がキーワードになっていますよね。地域に風をおこしたい、復興の風を吹かせたいと教員、学生たちは頑張っているし、学生歌も『風のモント』です」

世界的視野で地域を創造する グローバルな人づくりを!

この4月、つくばの高エネルギー加速器研究機構長だった鈴木厚人氏が、岩手県立大学の学長に就任した。国内外を舞台に研究の第一線に立ってきた鈴木学長の就任は、人材育成や産学官連携の大きな追い風。そこで県立大学では、岩手県知事 達増拓也氏を迎え、「魅力ある岩手づくり」「復興支援」「県と大学の連携」という3つのテーマについて、鈴木学長と熱いトークを繰り広げて頂いた。



岩手県知事 達増 拓也

1964年、岩手県生まれ。東京大学法学部卒、米国ジョンズ・ホプキンス大学国際研究高等大学院修了。外務省大臣官房総務課課長補佐、衆議院議員を経て、2007年から現職。



岩手県立大学長 鈴木 厚人

1946年、新潟県生まれ。東北大学大学院理学研究科博士課程修了。東北大学副学長、高エネルギー加速器研究機構長を経て、2015年4月から現職。専門は高エネルギー物理学。



新たな魅力づくりを通して
世界が注目する岩手を創造する

鈴木学長 岩手に来て3ヶ月が経ちましたが、ここは空気が澄んで非常に気持ちがいい。大学周辺を見ても、すぐ手が届くほどの近さに自然がある。人と自然が一体となっているところが、岩手の魅力だと思いますね。

達増知事 他にも、平泉の世界文化遺産や登録が見込まれる釜石市の橋野鉄鉱山・高炉跡など、貴重な文化遺産にも恵まれています。特に、北上山地に誘致を進めている国際リニアコライダー(以下LHC)の建設は、地域の底力を引き出しながら世界とのつながりを強めていく、地方創生の象徴的なプロジェクトと言えます。

鈴木学長 LHCについては、これまでの大型プロジェクトと違った概念で取り組みなければなりません。例えとお話するのが、南極大陸です。南極大陸には各国の基地があり、それぞれの国で運営を行っています。同様にLHCでも、各国の主要な研究機関が岩手に集結する。つまり、国連機関のようなものができるわけですから、岩手の中に新しい国をつくるのと同じこと。これは、日本創成会議が提言する地域からの「開国」です。*(*) LHCを通して岩手で人づくり・ものづくりを進めることは、世界に開かれた日本をつくること。大学でも地域振興の側面から関われることを考えていきたいと思っています。

達増知事 地域からの開国は、まさに地方創生につながる概念です。岩手から日本を触発するという意味では、来年開催する国体大会でもこれまでにない取り組みを考えています。県では「拡張国体」というコンセプトを立て、スポーツを軸しながら地域振興に結びつくイベントも同時に開催していく。単なるスポーツの祭典ではない新たな国体・大会のあり方を、岩手から発信していきたいと思っています。

復興支援活動を教育の柱とし、
グローバルな人材を育成

達増知事 県では平成26年度からの3年間を「本格復興期間」と位置づけ、今年度を「本格復興邁進年」として全力で復興に取り組んでいます。これまで、災害廃棄物の処理や三陸鉄道の全線運行再開、漁業を始めとした産業支援など、復興の取り組みを着実に進めてきました。しかし、未だ2万6千人余りの方々が応急仮設住宅等で暮らしており、一日も早く恒久的な住宅に移れるよう力を注いでいます。

鈴木学長 学生たちも様々なボランティア活動を通して、復興支援に尽力しています。しかし、復興は時間の関数です。震災から4年が経過した今は、復興の進捗も停滞する時期。被災地でも、様々な課題が生まれているといえます。日本にはムラ社会という言葉がありますが、家族や地域の絆を新たにしないといけません。この構造が機能するのではないかと、どっやったら被災地に現代版ムラ社会をつくり、新たなつながりを生み出せるかを、学生たちに投げかけたかと思っています。

学長にアレコレ18の質問！ 鈴木 厚人学長の横顔に迫る！！

世界で初めて反ニュートリノの質量を検出し、新たな研究分野を開拓した研究者でもある鈴木厚人学長。温かな笑顔には優しい人柄がにじみ出ているが、いったい鈴木学長ってどんな人なんだろう。少年時代までさかのぼって、根掘り葉掘りいろんな質問をぶつけてみた。

Q1_子どもの頃の夢は何でしたか？

小学生の頃は、友だちと海岸に出かけて、日が沈むまで相撲や野球をして遊んでいました。中学時代は野球部で4番。キャプテンを務め、地元の新潟市内の大会で優勝もしたんですよ。具体的にやりたいものが見つかったのは、高校2年の時。修学旅行先の京都の本屋で、なぜか「物理学入門」を手に取り、物理の道に進もうと決めました。

Q2_学生時代はどんな学生でしたか？

予習してから授業にのぞむなど、結構まじめに勉強しました。同級生を集めて自主ゼミを開催していたのですが、さぼる友だちもいたのでゼミの前に必ず麻雀をやるようにして(笑)。お陰で参加率は高かった。

Q3_研究者にならなければ、どんな仕事に就いていましたか？

父は高校で数学を教えていたのですが、私も理系教科が好きだったので物理か数学の教員になっていたと思います。

Q4_県立大学の学生に対する印象は？

今の若者全体の印象としてですが、なんというか、動きがどことなくコミカルで面白い。異次元の人を見ているような印象(笑)。でも、皆さん発想が柔軟で、いろんなアイデアを持っているのがいいですね。

Q5_自分の性格をひとことで言い表すとすれば？

楽天的で能天気。あんまりクヨクヨしません。

Q6_好きな食べ物は何ですか？

イカ、タコ、エビ、貝などの魚介類。

Q7_好きな言葉は何ですか？

「今が大切」という元東北大学総長の本多先生の言葉。勉強でも実験でも、今に全力を尽くすことが大事。「今できることは、なんでもやろう」というのが私のモットーです。

Q8_苦手なものはありますか？

蛇と学芸会です。特に演技をするのが嫌いで、自分じゃないものになることにすぐ違和感があった。学芸会の練習が嫌で逃げ出すと、同級生の女子に叱られて連れ戻されたりしてね(笑)。

Q9_怖いものはありますか？

高エネルギー加速器研究機構に勤めていた時は、夢を見るのが怖かった。年に20回くらい海外に出張していたので、飛行機に間に合わずあわてるような悪い夢ばかり見ていたんです。岩手に来てから、悪夢は見なくなりました。

Q10_海外経験が豊富ですが、海外でのエピソードを教えてください。

旅行会社の不手際でカバンが届かず、着替えもないまま気温-5℃のバンクーバーから、30℃のバンコク、そして-30℃のノボシビルスク(露)へ連続出張…。気温の落差がものすごくあったのですが、空港のショップにかけこんで急場で服を整え、何とかしのぎました。

Q11_人付き合いで大事にしていることはありますか？

相手の立場を理解するように心掛けています。

Q12_尊敬している人は誰ですか？

これまで偉業を成し遂げてきた先人たちすべて。

Q13_人生の中で宝物だと思うものは？

体力です。50代までは2晩くらい徹夜しても平気でした。

Q14_愛読書はありますか？もしくは好きな作家は？

いきあたりばったり読書するタイプなんですが、あえて挙げるとすれば村上春樹の「世界の終わり」とハードボイルドワンダーランドです。

Q15_休日は何をして過ごしていますか？趣味などはありますか？

休日は講演の準備をしていることがほとんど。趣味というほどではないですが、たまに料理は作っていました。魚介類をソースで和えたり、ミラノ風カツレツをつくらしたり。酒のつまみばかりですが(笑)。

Q16_岩手でやってみたいことは？

妻と一緒に、岩手を旅すること。温泉や高原など、いろんなところを回ってみたいです。

Q17_学生と一緒にやりたいことは？

いろんな研究や地域活動に取り組んでみたいです。

Q18_学生たちにメッセージを！

今やるべきことを大切に、一生懸命取り組みましょう。どんどん達成感を積み重ねていくことが、必ず次の力になるはず。



達増知事 震災後平成24年から26年の2年間で、20歳から24歳の人口層が増加しているのですが、予想以上に若者たちが復興の大きな力になっていることを改めて認識しました。このような若者たちの力を引き出せるよう、県でも「若者支援」に重点的に取り組んでいます。「いわて若者会議」や「いわて若者文化祭」の開催、「いわて若者交流ポータルサイト」の設置などを行っており、若者間の交流やネットワークづくりを広げています。また、「いわて若者アイディア実現補助事業」では、若者らしいユニークな構想の実現を後押ししていますので、このような取り組みに学生にも積極的に参加してほしいですね。

県との連携を強固にしながら、地域課題の解決に取り組む

鈴木学長 大学には「人類と社会に貢献する」という重要な使命があります。これを果たすべく、市民、社会の中に同じ目線が入り、地域の問題を共有し解決していくことが、大学の役割です。特に県立大学は、地域との関わりが深い大学ですので、地域の課題解決に全力を尽くさなければなりません。そのため、大事なことは、まず「信頼される大学」になること。岩手の人々に信頼されるという基盤ができて初めて、県との連携があり、復興支援活動があると思います。

発をする環境を整えたのですが、i-MOSはこれをすでに実現しているのを見て驚きました。また、地方創生支援チームで、県内全市町村に二回調査を行ったところ、ほぼすべての市町村から回答が来まして、我々に対する期待感が非常に高い。これまでの実績を活かしながら、今ある地域課題の解決に取り組んでいきたいと思っています。

達増知事 素粒子物理学の権威である鈴木学長を県立大学にお迎えしたことは、I-LICの誘致においても大変心強く思っています。また、復興と地方創生という大きな課題に対して、県立大学の今後に大いに期待しています。

大学から新たな文化を創造し、未来の岩手づくりに貢献

鈴木学長 学生たちが復興支援や地方創生に取り組むことは、グローバル社会に必要な素養を育むことにつながると思います。これからのグローバル社会では、文明の異なる様々な価値観を持った人々を互いに理解し、「コミュニケーション」を成立させなければなりません。復興支援活動では、地域の異なる様々な年齢層の人たちと接しながら、価値観や考え方の違いを乗り越え、活動を推進していく力が磨かれます。これはまさに、グローバル社会に通用する能力そのもの。復興支援や地域創生などの活動を通してグローバルな人材を育てていくことを、教育の柱にしたいと考えています。

達増知事 これまで様々な連携が行われてきたわけですが、いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター(通称i-MOS)や滝沢市IPUIノベーションセンターでの産学官共同研究、地域政策研究センターの地域協働研究や復興支援活動など、今後もうこうした取り組みを継続してお願いしたいと思っています。また県立大学の「地方創生支援チーム」には県職員も派遣しており、期待も大きい。県民のシンクタンクとして市町村支援にどんどん取り組んでほしいですね。

鈴木学長 ありがとうございます。冒頭で、人と自然が一体となっていることが岩手の魅力とお話しましたが、自然との共存は簡単なことではありません。その中でどうしたら安全、安心な岩手をつくれるか、世界から人を引き込む魅力的な岩手をつくれるか、それを県と一緒に考え、取り組んでいきたいと思っています。そのために我々が目指すのは、「学術」「創造」「生活・地域」を基盤とした大学の活動を通して、「新たな文化を創ること」。大学から文化を創造・発信していくことで、未来の岩手づくりに貢献していきたいと考えています。

Campus Friends

Vol.4

水泳部

県立大学のサークルや同好会、
学生会活動を紹介する「キャンパスフレンズ」。
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。

DATA

水泳部

開学の年、平成10年に創部したサークル。現在の部員数は26名(男子11名・女子15名)。県内の大学では珍しい冬期でも泳げる屋内温水プールがあることから、練習には盛岡・滝沢エリアの他大学の学生たちも参加。互いに切磋琢磨しながら、技術の向上に努めている。練習は、火・木・金の週3日(19時~20時30分)。



週3日行われる練習では、それぞれが目標をもって技術を磨いている。

他の競技と比べて孤独なスポーツではありませんが、そのぶん精神的に強くなれると思いますね」と、村上さん。自分に向き合う中で体得する、努力の大切さと忍耐力。水泳で培われた力は、人生の様々な場面で生きてくるはずだ。

「水泳の面白さは、自分で研究を重ね、試行錯誤したことが成果として現れること。

その一方で、部としてのまとまりにも気を配り、「みんなで楽しむこと」を大事にするのが水泳部のモットー。普段の練習はもちろん、新入生歓迎会や忘・新年会、大会の打ち上げや大学祭への模擬店の出店など、部員同士のコミュニケーションを深める行事も積極的に開催している。

「水泳の面白さは、自分で研究を重ね、試行錯誤したことが成果として現れること。その一方で、部としてのまとまりにも気を配り、「みんなで楽しむこと」を大事にするのが水泳部のモットー。普段の練習はもちろん、新入生歓迎会や忘・新年会、大会の打ち上げや大学祭への模擬店の出店など、部員同士のコミュニケーションを深める行事も積極的に開催している。

「高校と違って大学の場合は、先生やコーチがいるわけじゃない。いかに自分のモチベーションを上げ、技術や精神面をコントロールできるか。要は自分との闘いです」と話すのは、岩手県立大学水泳部の部長・村上勇輝さん(ソフトウェア情報学部3年)。多くは中学校や高校で水泳をしてきた経験者だが、初心者も3割ほど。タイムや技術を磨く学生もいれば、からだを鍛えたり、楽しむために水泳をする学生もいて、目的は様々。それぞれが自分のペースで、思い思いに水泳に取り組んでいる。

水泳を通して鍛えたチカラは
これからの人生の糧になる。

読んでみて!! 私のおすすめ本

[教員] 齋藤 俊明 (総合政策学部)



■自発的隷従論

エティエンヌ・ド・ラ・ポエン著
山上浩嗣訳(ちくま学芸文庫)

政治的・社会的関係を支配と被支配においてとらえるとともに、被支配における自発的隷従にひそむ本質的構造を暴露した著作である。現代日本における自発的隷従を読み解くための視点を提供して興味深い。

[職員] 小平 浩 (教育研究支援室)



■黒書院の六兵衛(上/下)

浅田次郎著(日本経済新聞出版社)

官軍に江戸城を引き渡すサムライ達はどんな矜持を考えたのか、示したのかについて極めてシンプルな構成で書き上げた小説。感動の終章としながら、あえて謎解きを読者に預けて幕を閉じるのは、むしろ余韻の贈物かも。

[LA] 武石 昂大 (社会福祉学部)



■99のなみだ・雨

涙がこころを癒す短編集
リンドブックス編集部編著(泰文堂)

この本は12篇からなる短編集です。どの短編もこころにじんわりと、雨のように染みていく物語です。雨が降って出かけるのがおっくう... そんなときにぜひおすすめしたい1冊です。

メディアセンター利用案内

[開館時間]

■通常期間

月～金曜日/9:00～21:00 土曜日/9:00～17:00

■夏季・冬季・春季休業期間

月曜日～土曜日/9:00～17:00

[休館日]

日・祝日、開学記念日6月19日、図書等整理日(毎月月末日)、年末年始(12/28～1/4)ほか

※詳細は館内掲示板やホームページをご確認ください。

[利用者カード](学外利用者対象)

図書の貸出を希望する方に「メディアセンター利用者カード」を発行します。

■申込方法

現住所が確認できる身分証明書を持参し、カウンターにてお申込みください。

[貸出]

貸出手続きには、「メディアセンター利用者カード」が必要です。カウンターまたは自動貸出返却装置で、貸出手続きを行ってください。

[返却]

カウンターまたは自動貸出返却装置で、返却手続きを行ってください。閉館時は、図書館前または本部棟の通用口にある返却ポストへ。ゆうパック、宅配便での返却も受け付けています。

詳しくはホームページをCHECK!

<http://www.iwate-pu.ac.jp/information/mediacenter/>



◎図書スペース
3階・4階に
広がる開架書架。
幅広いジャンルの
図書が揃っている。

わからない
ことがあったら
ボクたちに
聞いてね!

◎閲覧席

3階・4階の窓際に設置された閲覧席。
晴れた日には雄大な岩手山の姿が望める。

くつろぎの
スペースも
ありますよ!

◎多目的学習スペース

雑誌や本を読んだり、学習スペースとして活用できる。
(パソコン利用は学内者限定)

いろいろな使い方が
できますよ!

◎学生の手書きポップ

LAの学生たちが、手書きしたPOP。
学生目線の書評がなかなか面白い。

◎カウンター周り

使い方わからないことがあればカウンターへ。
ライブラリー・アテンダント(LA)の学生が教えてくれる。

大学図書館といえば、教育・研究の本が充実していることが大きな特徴。特に看護社会福祉関連の資料は県内でもトップクラスといわれているが、それだけではない。最新の各種雑誌、国内外の新聞などに加え、近年ではベストセラーや趣味の本も置くなど、専門書以外にも幅広いジャンルのライナップを取り揃えている。

本好きの学生たちが直接書店に向き、図書館に置いてほしい本を選ぶ「選書ツアー」などの取り組みにより、学生目線での資料の充実が図られているのだ。

入館ゲートを入って正面にある企画展示コーナーでは、選書ツアーで選んだ本や学生たちのおすすめ本などがお手製のPOPとともに紹介されており、利用者からも好評だ。

専門書からベストセラーまで
ライナップが大充実!

学内者限定のスペースも一部あるが、ほとんどのスペースを自由に利用できることもメディアセンターの魅力。岩手山や美しい自然が眺められる窓際の閲覧席をはじめ、多目的学習スペースや新聞コーナー、視聴覚ブース、インターネットコーナーなど、図書の閲覧以外にも様々な用途があり、調べものをする人や勉強に訪れる中高生も多いという。

このような図書館利用をサポートしてくれるのが、ライブラリー・アテンダント(LA)という学生スタッフ。利用の仕方を教えてくれるだけでなく、テーマに沿った本の展示や、本の魅力を紹介し合う書評コンテスト「ピブリオバトル」などのイベントも開催。大学図書館で、新たな本との出会いを楽しんでみるのもいいかもしれない。

読書や勉強、寛ぎのスペースも
利用の仕方はあなた次第

特集 02 Features02 メディアセンター(図書館)利用のすすめ

図書館に出かけよう!

「大学図書館って関係者しか利用できないのでは?」と思っている人も多はず。一般の人たちにも広く開放され、専門書以外の本も充実しているのが、岩手県立大学のメディアセンター(図書館)。本の貸出だけでなく、いろいろな使い方ができる図書館へ、気軽に足を運んでみよう。





TAKIZAWA CAMPUS 4.6

784名が新たな大学生活をスタート!

宮古4月3日、滝沢4月6日に、平成27年度の岩手県立大学の入学式が行われました。今年度は宮古短期大学部で108名、滝沢キャンパスでは四年制、短大、大学院合わせて676名が新たな門出を迎えました。式典では、鈴木厚人学長から「今直面している課題に全力を尽くして取り組んでほしい」「復興支援にも積極的に参加し、取り組んでほしい」などの言葉が贈られ、入学生代表からは今後の大学生活への宣誓がなされました。



MIYAKO CAMPUS 4.3

優秀学生賞授与式が行われました

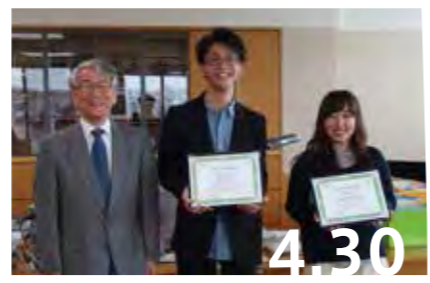
4月23日、優秀学生賞の授与式が行われました。これは、平成26年度の終了時に、各学部各年次で特に優れた学業成績を収めた学生に贈られるものです。鈴木学長から賞状・副賞が授与されるとともに、「鉄は熱いうちに打て」というが、大学生の今は一番頭がやわらかく、多くの知識を吸収できる時期。たくさん勉強して来年もこの授与式の場に出来るよう頑張ってください」との言葉が贈られました。



4.23

学生の活動にサウジアラビア大使館から感謝状

岩手県立大学と岩手大学の二大学連携組織「ELEVIx」で活動するグループのメンバーがサウジアラビア大使館から感謝状を贈られ、本学の学生2名が鈴木学長から本人に伝達されました。今年3月21～23日にサウジアラビアの国費留学生が一関工業高等専門学校で小型電気自動車を用いた授業を受けた際に、二大学の学生が講師役として協力。その後の懇親会においても、留学生との交流を深めたことに対し、大使館から感謝状が贈られたものです。



4.30

学部対抗の熱い戦いが繰り広げられました

第7回体育祭を5月9日に開催しました。滝沢キャンパスの学部、教職員はもちろん、宮古キャンパスからも2時間かけて学生がバスで駆けつけて参加する全学イベントです。玉入れに始まり、長縄跳びやリレーなどの競技をチームワークで乗り切って優勝したのは、総合政策学部・盛岡短期大学部の合同チーム。汗を流した後は学食で交流会も行われ、学部を超えて交流を深めました。



5.9



5.24

NHKの公開収録イベントを宮古で開催!

宮古短期大学部を会場に「NHK公開復興サポート 明日へin宮古」が開催されました。これは被災地に元気と笑顔を届けることを目的にNHK盛岡放送局主催、宮古市・本学の共催により実施したものです。複数のテレビ・ラジオ番組の公開収録に加え、入場自由のステージ企画や遊具や展示、屋台、ライブも行われ、宮古市民など約3800人が来場。本学も番組への協力、復興支援活動のパネル展示、学生団体による屋台での販売を行いました。



6.3

地方創生支援チームによる自治体職員向け研修会

6月3日に「岩手県立大学地方創生支援スタート研修会」を本学で開催しました。これは地方創生に向けて、自治体が実効性の高い総合戦略を策定するために必要な情報や考え方を共有することを目的に実施したものです。県内22市町村の担当者約30人が参加し、本学の地方創生支援チームから大学による支援の概要やイメージ、岩手県から県の戦略策定に関する取り組みなどの説明がありました。参加者からも様々な意見が出るなど、関心の高さがうかがわれました。

産学公の連携によるイノベーション創出を目指して

「滝沢市IPUイノベーションフォーラム2015～多様な連携による地域イノベーションの創出～」が6月5日に本学向かいの滝沢市IPU第2イノベーションセンターで開催されました。大学の教職員と学生、企業、自治体の関係者など約180名が参加。鈴木学長による「私の描く(素人から見た)岩手発のイノベーション」と題した基調講演に続き、国際リニアコライダーに関する講演やイノベーションセンター入居企業による活動発表、交流会が行われました。



6.5

人事異動情報

平成27年3月31日付転出・退職

国体・障がい者スポーツ大会局/競技式典課(前 教育研究支援室/教育研究支援課長)	高松 秀一
地方独立行政法人岩手県工業技術センター(前 教育研究支援室/主幹)	古里 清孝
保健福祉部/岩手県福祉総合相談センター(前 教育研究支援室/主幹)	昆 英子
盛岡広域振興局/経営企画部(前 教育研究支援室/主任主査)	佐々木 こずえ
総務部/管財課(前 教育研究支援室/主事)	吉田 園子
総務部/総合防災室(前 地域連携室/主任主査)	細川 徹
教育委員会事務局/教職員課(前 企画室/室長)	今野 秀一
環境生活部/若者女性協働推進室(前 企画室/企画課長)	中里 裕美
環境生活部/若者女性協働推進室(前 企画室/主幹)	寺澤 敬行
総務部/岩手県東京事務所(前 企画室/主幹)	本正 義則
保健福祉部/保健福祉企画室(前 企画室/主任主査)	佐々木 昭子
企業局/経営総務室(前 企画室/主事)	笹井 奈穂子
国体・障がい者スポーツ大会局/障がい者スポーツ大会課(前 宮古事務局/主任主査)	菊池 理香
農林水産部/岩手県内水面水産技術センター(前 宮古事務局/主事)	坂本 悠
退職(前 学生支援室/上席保健師)	琵琶坂 和江
退職(前 学生支援室/主事)	松本 唯美

平成27年4月1日付転入・採用

教育研究支援室/教育研究支援課長(前 総務部/総務室)	和田 英樹
教育研究支援室/主幹(前 政策地域部/調査統計課)	八重樫 弘喜
教育研究支援室/主事(前 盛岡広域振興局/県税課)	照井 将俊
学生支援室/主査保健師(前 盛岡広域振興局/保健福祉環境部一関保健福祉環境センター)	横澤 貴子
地域連携室/特任准教授(前 環境生活部/廃棄物特別対策室)	千葉 実
地域連携室/主幹(前 県土整備部/空港課)	菊池 仁
企画室/室長(前 商工労働観光部/経営支援課)	山村 勉
企画室/企画課長(前 岩手県収用委員会事務局)	高井 知行
企画室/主幹(前 商工労働観光部/商工企画室)	武田 顕
企画室/主任主査(前 盛岡広域振興局/保健福祉環境部)	小川 公子
企画室/主査(前 企業局/経営総務室)	外川 華史
企画室/主事(前 政策地域部/調査統計課)	片岡 奈央子
宮古事務局/主事(前 沿岸広域振興局/水産部宮古水産振興センター)	倉部 将裕
宮古事務局/主事(前 県北広域振興局/保健福祉環境部)	山崎 寛子
教育研究支援室/主事(新採用)	嶋崎 悠
教育研究支援室/主事(新採用)	大西 夏絵
学生支援室/主事(新採用)	大鷲 未希
企画室/主事(新採用)	佐藤 ゆかの

平成27年度岩手県立大学公開講座 (滝沢キャンパス講座)

本学では開学以来、大学の教育・研究の成果を還元し、地域社会の発展に貢献することを目的として、公開講座を開講しています。今年度は近年多く報道されている話題等に関連し、学内外の講師陣から専門的な立場でお話ししていただきます。どなたでもご参加いただけますので、ご家族、ご友人などお誘いあわせてお気軽にご参加ください。

【テーマ】「もっと知りたい!～世界や日本、岩手の今～」
 【開催期間】7月18日～9月5日(土曜日・全7回)
 【受講料】受講回数に関わらず一律1,000円 ※高校生以下の方は無料です。
 【開催場所】岩手県立大学滝沢キャンパス(滝沢市菓子152-52)
 【お問合せ・お申込】岩手県立大学地域連携室 TEL.019-694-3330
 E-mail:koukaikouza@ml.iwate-pu.ac.jp

- 7月18日(土) ■ 講座1 13:15～15:15 国際リニアコライダー計画(ILC)とは 講師:鈴木厚人(岩手県立大学・学長)
- 7月25日(土) ■ 講座2 10:00～12:00 日本人と中国人のコミュニケーション～孔子の正名論と万葉集の言葉から学ぶ～ 講師:ウヴェ・リヒタ(高等教育推進センター・教授)
- 講座3 13:00～15:00 「地域」から考えるイスラーム 講師:見市建(総合政策学部・准教授)
- 8月1日(土) ■ 講座4 10:00～12:00 人をケアすること人からケアされること 講師:三浦幸枝氏(岩手医科大学附属病院・看護部長)
- 講座5 13:00～15:00 3Dプリンタの基本的な原理とその応用～3Dプリンタの仕組みと機能、長所短所、今後の応用分野～ 講師:土井章男(ソフトウェア情報学部・教授)
- 9月5日(土) ■ 講座6 10:00～12:00 経済学のトピックスをあけてみよう!～世の中を経済学の目で見るといふこと～ 講師:伊藤健宏(総合政策学部・准教授)
- 講座7 13:00～15:00 躍動する世界の女性たち～環境正義から学ぶ女性の新たな力～ 講師:熊本早苗(盛岡短期大学部・准教授)

●全ての講座に手話通訳・要訳筆記通訳をご用意します。

※講師・タイトルは変更となる場合がありますのでご了承ください。

This is My Action!

OB&OG Voice

大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。

編集後記

特集1は達増岩手県知事を本学に迎えての対談企画。鈴木学長と復興や地域課題の解決、岩手の未来づくりにおける大学との連携などについてお話しいただきました。一方で保健師との両立で社会人大学院生となり看護学研究科で学ぶ2ページの尾無さん、このページで紹介している社会福祉法人岩手ひだまり会理事長の田鎖さんは、今まさに地域の中で人とつながり、課題に取り組んでいます。対談とお二人の姿を通し、大学の役割を改めて考える機会となりました。(企画室・三輪陽子)

IPU公式アカウントについて

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などについて、よりリアルタイムに発信するためTwitter公式アカウント【@IPU_official】で情報提供を行っています。さらに、インターネット上での情報発信力をより一層強化するために、Facebook、YouTube等の活用も行っていきます。是非、Twitterアカウントの「フォロー」、Facebookページの「いいね!」によりコンテンツをご覧ください。



〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/ [e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp

[看護学部] [社会福祉学部] [ソフトウェア情報学部] [総合政策学部] [盛岡短期大学部] [宮古短期大学部]

障がいのある子どもたちの人生を支え、地域とつないでいくことが私の使命。



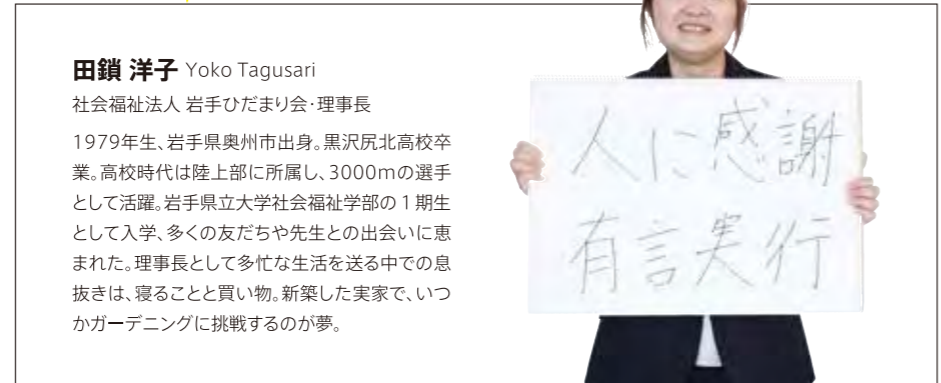
昨年から理事長となって責任も増したが、常に心していることは「人に尽くし、人に学び、人に感謝せよ」という法人理念。

私の場合、学生時代から福祉の道に進みたいと明確な意志を持っていたわけではありません。むしろ、大変な仕事というイメージもあり、就職先の障がい者支援施設にも事務員として採用されました。そんな私が変わったのは、生活支援員に異動となり、直接お世話をするようになってから。利用者と接することが楽しく、仕事にやりがいを感じるようになったんです。その一方で、疑問を持ち始めたのが支援のあり方。それを突き詰めていくうちに、障がいを持った人たちとその家族が安心して地域で暮らせる場を作りたいと思い、施設の仲間とNPO法人を立ち上げました。大学を卒業して4年目、平成18年の時です。

当時、奥州市には、支援学校に通う子どもたちをサポートする場がなく、家族が始終面倒を見なければなりません。そこで、放課後に子どもたちを預かるデイサービスや日中の生活介護サービスなどをスタート。これによって子どもたちに居場所ができ、母親が働けるようになるなど家族の負担も減少。私たちが始めた支援を多くの人が望んでいたことを実感しました。

この4月に社会福祉法人に移行し、事業所も5カ所、利用者も165名に。手探りの状態から事業所を運営し、私自身、精神的にまいった時期もありましたが、それを支えてくれたのは子どもたちの笑顔であり、成長する姿です。まだまだ障がいのある人に対する偏見はありますが、地域と共生しながら生きていける場をつくるのが、これからの目標。学校を終えた後もずっと、子どもたちの人生に寄り添っていかれたらと考えています。

ワタシ★アクション!



田鎖 洋子 Yoko Tagusari

社会福祉法人 岩手ひだまり会 理事長

1979年生、岩手県奥州市出身。黒沢尻北高校卒業。高校時代は陸上部に所属し、3000mの選手として活躍。岩手県立大学社会福祉学部の1期生として入学。多くの友だちや先生との出会いに恵まれた。理事長として多忙な生活を送る中で息抜きは、寝ることと買い物。新築した実家で、いつかガーデニングに挑戦するのが夢。

...See You Next Action!

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーです。 (*´▽`*)

ケンダイ★広報局

学生★企画



新しい仲間が増えました♡



おススポちゃんねる

そろそろ身の回りが落ち着いた頃…。周りを見る余裕も出てきたのでは? そんなわけで今回はおススメのスポット、略しておススポを紹介しますっ(´▽`)

A.学食 やっぱ王道!学生の楽しい味方
値段・ボリュームともに人気の学生食堂!

勉強の合間にリフレッシュ!探検もできる?
大学に隣接する自然豊かな森林公園(o´▽`o) **C.滝沢森林公園**

おススメポイント
うさぎ毛布 (4年)
「スタッフのみなさんが気さく!話しやすいです!(^▽^)」
DBS (4年)
「なんといっても週替わりのソフトクリームがオススメです!☆」

おススメポイント
なるちゃん (2年)
「自然に囲まれて気持ちよくお散歩ができるy(^-^y」
みかちゃん (2年)
「今度お昼ごはんを持って遊びに来たい!*(^o^)/」

おススメポイント
はっち (3年)
「飲食可能で話しながら勉強できてはかどる!(´▽`)」
さおりん (3年)
「音楽が流れていて集中できる!」

おススメポイント
じょー (3年)
「キャッチボールもできる!◎」
ほーりー (3年)
「眺めも良い!(^▽^)」
りかこ (3年)
「ベンチがあるのでお昼を食べるのも良いかも!*(^▽^)/」

図書館の隣りにある学びのためのフリースペース? **B.多目的スペース 風のモト**
軽食もできる!

いつも食堂じゃ味気ない!?意外と穴場 **D.調整池**
学内の憩いの場で水辺はピオトップ☆